

別記第1

様式第5

平成30年 6月 日

## 平成29年度の主な事業報告

社会福祉法人 天水福祉事業会

### 社会福祉事業

#### 高齢者福祉事業

特別養護老人ホーム「ケアビレッジたがの里」(定員29名)、同施設ショートステイ(定員1名、空床型29名)、小規模多機能ホーム「きらめき」(定員通所15名、宿泊9名)、通所介護事業所「ニコニコハウス」(定員19名)及び昨年9月からは当法人の念願であった居宅介護支援事業所わかみやを運営している。相談～通所～入所という体系的な支援が出来るようになった。

#### ① ケアビレッジたがの里

本年度は、前半の4、5、6月はほぼ満床の状態推移したが、7月入居者様の中に健康状態が不安定になられる方が相次ぎ、空床が見られるようになった。年間を通じての利用率は96%であった。

入居者様が長期に入院が見込まれる際、当事業所では入院7日目以降から居室を空床型ショートステイとして利用を許可される場合、居室料は免除とさせていただき取り組みを行っている。

当施設の認知度を高めるための方策として、当施設との関係が深い居宅介護支援事業所、病院(地域連携室)、地域包括支援センター等を訪問しPR活動に積極的に取り組んだ。

当施設の待機者状況については現在2名であるが、空床ができた際は速やかに関係機関を訪問するなどして、入居を希望される方々の期待に応えたい。

次に、入居いただいた方々の状況は、月平均利用者数28名、男性17.2%、

女性82.8%、平均要介護度は、3.2であった。昨年度と比べ、介護度が高くなった。特別養護老人ホーム入居基準の要介護度3を上回っている。

行事としては、各ユニット（3ユニットあり）嗜好を凝らし、団子やケーキ作り、ペタンク大会・カルタ取り大会、ドライブ、そして大きな行事として天水つながらる夏祭り・若宮天子宫大祭・喫茶タイム・敬老会・クリスマス会・忘年会等、更には当施設に隣接する小天保育園の園児のふれあい訪問やボランティア団体の訪問が随時行われ、入居者の皆様には有意義な時間を過ごしていただけたものと思われる。

給食の提供状況は、入居者様の嗜好や健康状態に応じ献立を工夫し普通食・ミキサー食・ムース食を提供した。また、月々の行事に応じ行事食（花祭り、土用の丑の日、敬老会、お月見、忘年会、おせち、節分、ひな祭り等）を提供し、舌鼓を打ってもらった。入居者様にたくさんの笑顔が見られた。

一方で、入院・通院については、延べ22名の方が入院、延べ 名の方が通院、延べ 名の方が救急外来を受診された。引き続き入居者様の健康管理に努める必要がる。

職員への取り組みとしては、スタッフの質の向上のため介護技術向上委員会等9専門委員会を開催するとともに、リーダー研修・介護実習研修・認知症介護実践研修等外部研修にも参加した。また1名がユニットケア施設管理者研修を受講しユニットケアの推進に努めている。

## ② ショートステイ

専用の居室が1床（さくら①）、空床型の居室が29床である。専用居室の稼働率は61.1%（223日利用／365日）であった。利用者の内訳は女性が7名、男性が5名の計12名であった。また、要介護度の内訳は、要支援1：0名、要支援2：1名、要介護1：2名、要介護2：3名、要介護3：2名、要介護4：2名、要介護5：2名であった。空床型のご利用は5名であった。多くの方にご

利用いただくことができたが、今後も引き続き稼働率のさらなる向上を目指し、営業活動を継続して行っていく必要がある。

提供させていただく行事としては、居室のあるユニットの行事に参加していただいていた（調理活動、ドライブ、散歩、保育園児とのふれあい、喫茶タイム、敬老会、忘年会、歌ボランティア 等）。

食事は上述「①ケアビレッジたがの里」と同様の対応を取らせていただいた。

通院に関して、基本的にはご家族の対応をお願いしているが、緊急性の高い事例やご家族の対応が難しい事例などでは施設の方で対応させていただいていた。

また、担当職員も各ユニット配属の職員が、事前に収集した情報をもとに、兼務で対応させていただいた。

### ③小規模多機能ホーム きらめき

安心した生活を支える小規模多機能型居宅介護に取り組んだ。具体的には、一つ目は本人の思いや願いを叶える支援、二つ目は24時間365日「その人らしい暮らし」を支える支援、三つ目は馴染みの地域で暮らし続けることの支援、四つ目は地域との支え合い、この四つに取り組んだ。

ご利用いただいた方々の状況は、定員15人であるが、月平均利用者数12人、男性41%、女性59%、平均要介護度は、2.0であった。

行事としては花見ドライブ・寿司作り、そして大きな行事として慰問演奏会・敬老会・忘年会等、更には当施設に隣接する小天保育園の園児のふれあい訪問や歌ボランティアの訪問が行われ、ご利用者の皆様には笑みも見られ有意義な時間を過ごしていただけたものと思われる。

給食の提供状況は、ご利用者の状況に応じ献立を工夫した食事を提供した。また、月々の行事に応じ行事食（敬老会、忘年会、おせち、節分、ひな祭り、花祭り等）を提供し、利用者様にたくさんの笑顔が見られた。

職員への取り組みとしては、スタッフの質の向上のため介護技術向上委員会等

専門委員会にて学んだり、また、認知症介護実践研修等の外部研修にも参加した。

#### ④通所介護事業所ニコニコハウス

平成17年3月より事業を開始し、今日まで13年間に渡り営業を行ってきた。

しかし、近年の介護保険制度の度重なる利用料の減額改正により、厳しい人員基準が設けられたことや、利用者の登録人数の減少や介護サービス等に不安を抱きながらの運営となった。

要介護者 月平均15.3人登録、8.5回の利用をいただいた。

要支援者 月平均 1.2人登録、5.2回の利用をいただいた。

総合支援事業 月平均 2.0人登録、6.3回の利用をいただいた。

#### ⑤居宅介護支援事業所わかみや

9月開設後、社会福祉協議・地域包括支援センターや玉名郡市の内科及び他の居宅介護支援事業所へ営業を行いPR活動を行った。また同月に3人の紹介があり、そのうち2人をケアビレッジたがの里の利用へとつなぐことができた。その後、定例会でのカタログ配布や地域包括支援センターから紹介を受けた研修・連絡会などへの参加、キャラバンメイトや認知症カフェ等への参加など知名度アップと地域との関係づくりに努めたが、まだ実績へとはつなげることができなかったが、地域の要支援の方へリハビリ室トッキーを呼びかけ利用者の獲得へとつなげたい。

#### ⑥地域貢献

##### (1) 一時生活支援事業

この事業は、玉名市からの委託事業で、生活困窮者で住まいの場がない方2人（男性2人）に住まいの場や食事を提供した。1人は住居がなく病気もされていたため、住居を確保し生活保護を受け治療に専念されている。1人が住居を確保し生活保護を受けながら就職活動を行っている。

## (2) レスキュー事業

玉名市からの依頼で生活困窮者2人(男性2人)に住まい・食事の提供、ライフライン代の支援、食材の支援、通院代の支援を行った。支援金額は合計58,812円であった。うち1人が生活保護を申請、うち1人は県外の出身地に帰られた。今後も法人の地域貢献の一環として引き続き本事業を継続する。

## (3) ポールケアあるく

昨年度に引き続き、「100歳まで歩ける体づくり」をモットーに毎週水曜日の午後に実施している。

昨年度は担当職員の不在時(研修)や感染症の流行時、年始以外の年間49回行うことができた。

本施設(たがの里、きらめき)の利用者をはじめ、玉名地域にお住まいの方と合わせて24名(女性19名、男性5名)の方にご利用いただくことができた。

昨年度はのべ450名、1回あたりの参加者数9.2名の規模で実施することができた。

活動内容として、全身のストレッチの他に簡単な筋力トレーニング、認知症予防の為の頭の体操、健康に関する情報の提供などを行うことができた。各個人の体力やその日の体調に応じて回数や負荷を調整することで、参加者全員に無理なく、適度なレベルで運動していただくことができた。

利用者同士とても良い関係性を築かれ、常に笑い声が絶えずに、心身共にリフレッシュしていただけているものと思う。

このように、ご高齢の方々が住み慣れたこの玉名の地で、心身共に健康的に過ごしていただく上で有効と思われる事業であるため、今年度も引き続き本事業を継続させていただきたい。

#### (4) 地域の縁がわ 「リハ室トッキー」

これまで熊本県の地域の縁がわ事業で使用していた空間を活用する方法を多岐にわたって考えてきたが、公民館や老人憩いの家等が点在していることから、会議や憩いの場としての需要は低かった。更に、以前より外来リハビリの制限、平成27年度の介護報酬改定により訪問リハビリの制限が行われ、地域でのリハビリ事情が悪化している事を考え、ニューステップ、平行棒、階段、電気治療器、マッサージ器等を準備し、平成29年11月より内部の方への開放、平成30年4月より地域への無料開放を広報することとしている。

地域の利用者：男性1名 女性0名

#### 公益事業

なし

#### 収益事業

ふれあいホーム ひまわり

地域の方々誰もが低料金でご利用いただける住まいの場である。年度途中で退居された方々を含み8名の方（男性3名、女性5名）にご利用いただいた。地域の方々にもっと利用していただくため引き続きこの事業を継続する。